

地域連携を通じた教育プログラム

愛媛大学 井上昌善

PC : inoue.masayoshi.xk@ehime-u.ac.jp

教育プログラム①

【西予市野村小学校の授業開発（総合的な学習の時間にて実施）】

令和3年度：防災倉庫の効果的な活用方法を考えよう！

令和4年度：防災倉庫の設置場所を考えよう！

令和5年度：復興まちづくりの取組について学び発信しよう！

令和6年度：復興公園のヒミツを探ろう！

令和7年度：地域企業（百姓百品）の復旧・復興の取り組みについて学ぼう！



四国子どもレジリエンス未来共創Summit
企画書（案）

～四国の未来防災と子どもたちの『未来的価値の創出』～

1.名称

四国子どもレジリエンス未来共創Summit
～四国の未来防災と子どもたちの『未来的価値の創出』～

2.目的

四国は、全国平均を10～15年上回るスピードで人口減少と少子高齢化が進行、日本における「課題先進地域」とされています。2050年には人口が3割減少（約260万人）すると予測され、人口減少による担い手不足、地域の経済社会の維持や経済活力の低下など深刻な課題を抱えています。

また四国は、今後30年以内に70～80%の確率で発生すると予測される南海トラフによって大きな影響をうけることが予想されており、防災、レジリエンスなまちづくりやリーダー育成は急務である一方で、若年層の防災意識の低さや防災教育の不足などが課題となっています。

本Summitは四国を支える学術界、産業界、行政、そして未来を担う子どもたちがワンチームとなって四国の課題や可能性を共有するとともに、人口減少、人口流出、防災などの近未来の危機を变革のチャンスと捉え、次世代リーダーである子どもたちの、柔軟な発想や多様な視点から、防災や理想のまちづくりのアイデアを提言してもらうことで、『四国の次世代型のまちづくり構想』を創出する機会とします。

3.日時:2026年8月24日(月) 13:00～17:00(開場 12:00)

4.会場:かがわ国際展示場(香川県高松市サンポート2-1)

5.対象: 四国の行政、学術界、経済界、教育関係者、地域リーダー、学生など



5.共催: 一般社団法人 The Global Resilience Summit / 香川大学

協力: 株式会社 MetaEarthHeroes

後援(予定): 香川県、徳島県、愛媛県、教育委員会、徳島大学、鳴門教育大学、愛媛大学、高知大学、四国商工会議所連合会 他

教育プログラム②（R3年度～うわじま∞あいだいプロジェクト）

概要

愛媛県宇和島市をフィールドに宇和島市内の中高校生と愛媛大学の学生がチームとなり、年齢や学校を超えた交流や社会参画体験様々な経験値を積み、地域に対する愛情や外部人材との関り方、地域資源の活用などを学ぶ



プロジェクト（R5年度うわじま∞あいだいプロジェクト）

内容

廃校を活用して公民館 を作ろう！



喜佐方小学校見学

公民館が移転される喜佐方小学校へ見学に行きました。現在ある小学校の教室をどのように公民館として活用していくかを考えながら見学をしました。午後から公民館をよく利用される方々からお話をいただく際に、喜佐方地区の方の思いや願いを聞き、思いや願いを汲み取った公民館の在り方を考えていきたいと思います。そして持続可能な地域づくりを目指していきたいと思います。



これからの喜佐方公民館について地域住民の方々と意見交換



本日は
お忙しい中ありがとうございます！



楽しく意見交換が
できていますね！

午後からは、班に分かれて地域住民の方に聞き取り調査を行いました。公民館の館長の方や理事長の方、喜佐方小学校の校長先生、市役所に勤めていらっしゃる方など、様々な立場から喜佐方公民館に関わっている地域住民の方と意見交換を行いました。

喜佐方公民館では日頃どのような活動を行っているかをはじめ、これからの喜佐方公民館がどうなっていきたいかについて話し合いました。どの班も和気あいあいとした雰囲気の中で、学生にとっても、地域の方にとっても楽しい時間になりました。また、この貴重な意見を踏まえ、どんな公民館にすればよいか、そうなるための活動について考える時間にすることができました。

グループ3 おいでよ あつまれ 喜佐方の家



公民館の外をにぎやかな場所、内をゆったりとできる場所にして、継続的な活動・イベントを行う公民館にするための提案をしました。

公民館の外では継続的にアスレチックをつくり、お年寄りから教えてもらいながら、昔の遊びを体験したりできるようにします。また定期的に運動会を行います。公民館の内では、自習室を設置して、継続的に給食を食べられる体験を行ったり、多世代で話することができる空間をつくりたいです。そして定期的にゲストハウスを行います。

グループ4 子どもと大人をつなげる公民館



子どもと大人をつなげるためのイベントを3つ提案しました。

1つ目は、脱出ゲームです。喜佐方小学校の6つの教室を使い、子どもと大人で1つのグループを作り、各教室でミッションをクリアします。また、大人ではなく子どもも運営を行い成功体験につなげます。

2つ目は、KISAGATA Cookingです。宇和島の郷土料理をつくり、未来の郷土料理開発したりします。そして、喜佐方のみかんを使った料理のブランド化を行います。

3つ目は、KISAGATA Sports Festivalです。年に数回、運動会形式・スポーツ大会形式などニーズや季節に合わせて行います。

プロジェクト（R7年度うわじま∞あいだいプロジェクト）

内容

公民館でプロジェクトを実践しよう！

2025年12月13日（土）に、第4回目のプログラムが、宇和島市喜佐方公民館にて行われました。午前の部では、午後から行われる「まちかどカフェ」の運営にあたる最終準備を班ごとに行いました。午後の部では、実際に喜佐方公民館を訪ね、「まちかどカフェ」運営のお手伝いをしました。まちかどカフェでは、4班に分かれ、それぞれカフェ、モルック、みかんの皮投げゲーム、みかん1kgぴたりチャレンジの運営を行いました。



第4回

うわじま∞あいだいプロジェクト

2025年12月13日

報告者：竹葉小晴 清水柑那 藤村修翔

今回のうわじま∞あいだいプロジェクトでは、第一回のプロジェクトから考案・準備してきた「まちかどカフェ」を喜佐方公民館にて実施しました。地域の子もたちからお年寄りまで、幅広い年代の人たちと交流を楽しみました。



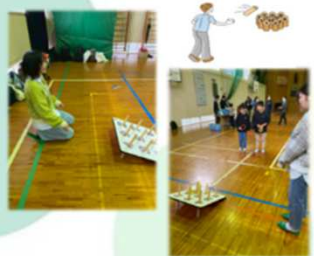
〈まちかどカフェの様子〉

中高大学生と地域の方々が協力してカフェの運営を行いました。訪れた地域の方々と一緒に机を囲み、コーヒーや紅茶を飲みながら楽しく交流しました。



〈モルック〉

年齢や体力に関係なく楽しめるスポーツであるモルックをみんなで楽しみました。異なる年齢の人たち同士でチームになり、競い合うことができました。



〈輪投げ〉

地域の子もたちがたくさん参加し、盛り上がっていました。ゲームの運営は、中高生が率先して行っていました。

当日の様子②

みかん1キロぴたりチャレンジ みかんの皮ターゲット

中高生と大学生で検討を重ね、うわじまのみかんを活かしたゲームを実践しました。みかんの皮投げは地域の方々が子どもの頃に遊んでいたゲームだそうです！小さい子どもからお年寄りまでたくさんの人が挑戦してくれて、「どの年代の人でも楽しめるゲームに」という目標が達成できたように感じます。



ビンゴゲームは会場にいる全員が参加！会話を交わしながらみんなで楽しめました！



ホリバタの改修工事の様子も見学させていただきました！



まとめ

今回の活動を通して、地域の方々の意見も取り入れながら、自分たちでイベントを企画し、実施するという貴重な経験を行うことができました。また、まちかどカフェに参加した方たちが楽しそうにしている姿を見て、やりがいを感じることができました。次回から、成果発表に向けたまとめの作業に入ります。今までの活動の成果を多くの人にわかりやすく伝えられるまとめになるよう、工夫していきたいと思います。

プロジェクト（R8年度うわしま∞あいだいプロジェクト）

うわしま∞あいだいプロジェクト①（地域づくり）

→公民館の効果的な活用方法について考える（中高校生対象）

うわしま∞あいだいプロジェクト②（教材開発）

→地域資源の教材・授業づくり、カリキュラム開発に取り組む
（教職志望の高校生対象）

井上研究室について



ウェブサイト

<http://citizenshiplab-2025.ed.ehime-u.ac.jp/>



メール

inoue.masayoshi.xk@ehime-u.ac.jp



インスタグラム



🔍 masayoshi_labo.ehimeuniv